

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
理事長	八木原 俊克
ICU/CCU 部長 兼心臓血管外科部長	船津 俊宏
医 長	鎌田 創吉
医 員	伊藤 仁人

—概要—

心臓血管外科では、冠動脈疾患、弁膜症、大動脈瘤、弁膜症合併不整脈、下肢閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤など、心臓大動脈を中心とした多様な病変に外科治療をおこなっている。近年、こうした循環器疾患の治療を要する患者さんは、高齢化、他疾患の合併などから、ますます病態は複雑化し、ハイリスクとなっている。これらの患者さんに対して、単に手術を行って生命予後を改善するばかりではなく、術後の活動性や生活の質を保つことも重要な課題である。われわれは、心臓センターの一翼として、循環器内科、看護師、薬剤師、リハビリテーション療法士、臨床工学技士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種と連携し、急性期診療に取り組んでいる。また慢性期の日常臨床においては、かかりつけである実地医療の先生方（病診・病病連携）と密に連携し、退院後の全身状態の把握や管理に努めている。

具体的な手術内容に関しては、低浸襲治療については、既に臨床応用され広く普及しつつある大動脈ステントグラフト治療に加え、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル弁置換も本邦に導入されている。新しい治療法やデバイスが盛んに開発されており、今後益々発展する領域である。当科では、従来の冠動脈バイパス手術、弁膜症手術、大動脈、末梢血管手術に加え、大阪大学心臓血管外科と連携し、高度な大動脈ステントグラフト治療を、特に高齢者、ハイリスク症例中心におこなっている。また、経カテーテル大動脈弁置換や、一般病院では対応困難な重症心不全の患者さんに対する植込み型補助心臓等の医療を受けて頂く橋渡しをおこなっていく。

—実績—

2016年度の手術室手術件数は159件であり、うち開心術は88例であった。開心術およびその他の内訳を以下に示す。

冠動脈疾患	29例 [※]
弁膜症	33例 [※]
胸部大動脈瘤（開胸手術）	12例 [※]
胸部ステントグラフト内挿	10例
急性大動脈解離	11例
心筋症、その他開心術	4例
末梢血管手術	22例
腹部大動脈瘤（開腹手術）	16例
腹部ステントグラフト内挿	17例
その他手術室手術	13例

[※]重複あり

—今年度の成果と反省点—

従来 of 心臓血管外科手術に加え、泉州救命救急センターへ搬送された、主に血管再建を要する外傷例にも積極的に対応し、救命診療科医師と連携して手術をおこなってきた。しかしながら、手術室手術数としては、前年度より10例の減少であり、次年度はさらに手術数増加のための取り組みを進める必要がある。

学術的には、全国学会での発表がおこなえたが、論文発表がなく、次年度には英文論文の作成にも尽力したい。

—来年への抱負—

昨年度に心雑音外来、大動脈外来を開設し、地域の実地医療医の先生方がより紹介受診させやすい外来診療体制を構築した。今年度も引き続き、泉州地域の患者さんをもらさず当院で治療することを目指し、外来診療の強化、地域連携の強化から、手術症例数の増加を図っていきたい。

また、心臓センター内、および泉州救命救急センターとの連携をこれまで以上に緊密にし、救急、重症例の心臓血管外科治療にも積極的に当たっていきたい。

加えて、手術侵襲を少しでも軽くし、早期退院、早期社会復帰が可能となる術式を今年度も模索し、実践していきたい。

